

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月31日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21592799

研究課題名（和文） 睡眠時に起こるアトピー性皮膚炎を持つ幼児の掻痒感への対処法と効果

研究課題名（英文） Mothers' Approach for Relieve Itching of Toddler with Atopic Dermatitis While Sleeping

研究代表者

杉浦 太一（SUGIURA TAICHI）

岐阜大学・医学部・教授

研究者番号：20273203

研究成果の概要（和文）：

幼児の育児をしている母親の感じている疲労（蓄積的疲労徴候）をアンケートで測定し、アトピー性皮膚炎の幼児の育児の有無による疲労の違いを明らかにした。保育園に子どもを通園させていた母親の3割がアトピー性皮膚炎の子どもの育児をしていた。アトピー性皮膚炎の痒みは、「子育ての大変さ」につながっていた。「子育ての大変さ」と関係がみられた蓄積的疲労徴候は、「気力の減退」、「イライラの状態」、「不安感」、「抑うつ感」、「慢性疲労徴候」であった。また、アトピー性皮膚炎日記を作成したが、運用と有効性の検証はこの先の課題である。

研究成果の概要（英文）：

The mother's burden of parenting of toddler with atopic dermatitis was investigated through the use of Cumulative Fatigue Symptoms Index (CFSI). The 29.6% mothers whose children attending a nursery school answered "my children affected atopic dermatitis". The mother's burden of parenting was influenced by child's intensification of itch. The mother's burden of parenting was related with "anxiety feeling" "depression" "chronic fatigue symptoms" "status of edgy" "lose energy". The note of children with atopic dermatitis was developed, and then use it.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：小児看護学，幼児，アトピー性皮膚炎，母親の疲労，掻痒感への対処

1. 研究開始当初の背景

痒みの発生機序はまだ十分解明されたわけではなく、現在も多くの研究者によって研究が進められている。特にアトピー性皮膚炎（以下 AD）の痒みへの対処としては薬物療法を主とするスキンケアが主であり、その他

には温度湿度の調整やアレルゲンおよび皮膚刺激物質からの回避といった環境調整である。古江らは「アトピー性皮膚炎の症状の制御および治療法の普及に関する研究」の中で、医師や保護者の痒み対策の相違や、インターネットによる情報発信、AD に特化した

QOL 評価表の作成を進めていた。

本研究では、乳幼児期に AD を重症化させないで学童期を迎えられるように、皮膚の搔破を防ぐような対策を考えることが重要であると考えた。AD の場合は痒みに対する搔痒動作を伴うため、搔かなければ AD も悪化しない場合が多い。しかし、軟膏などの塗布や内服以外で個別性に合った対処法とその効果についての研究は見当たらない。

平成 19 年に行った「幼児後期のアトピー性皮膚炎を持つ子どもが痒みを感じた時に母親が行う搔破予防法」という質的研究では、AD の幼児を育児する母親からは「痒みを引き起こすものを取り除く」、「身体の火照りを沈める」、「痒い気持ちに寄り添う」など、子どもが痒みを言葉や行動で訴えるときに 9 種類の対処行動を試みていることが明らかになった。母親は、処方された薬の効果に疑問を抱きながら AD の痒みと向き合っており、対処による効果については漠然としており達成感が得られていない状況で、疲れを感じている母親もみられた。痒みの程度は、6 歳以上でないと正確に表現できないと言われているため、幼児期後期では子どもの言葉で効果を判断することが難しい。そのため、母親がより具体的に自分の対処行動の効果を実感できるようなものが求められると考え、子どもの搔破行動の頻度を数値として捉えられるようにすることと、母親の対処行動との関連づけを行うことで、母親の達成感も得られ、達成感が不確かな時に比較して疲労感も軽減して子どもと母親の QOL は向上すると考えた。

2. 研究の目的

- (1) AD 幼児の育児をする母親の感じている疲労（蓄積的疲労徴候）を測定し、AD のない幼児の母親との違いを明らかにする。
- (2) AD の軽減や悪化の経過を把握するためのアトピー性皮膚炎日記を開発する。
- (3) 夜間睡眠時に、AD の幼児が行う搔破行動の頻度・程度と、母親の対処行動の関係を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) AD 幼児の母親の特徴把握と蓄積的疲労度測定

A 病院小児科外来と B 小児科医院を受診した AD 幼児の育児をしている母親、および C 保育園に子どもを通園させている母親を対象とした。保育園の母親は、AD のない幼児の母親も対照群として含むこととした。対象の母親には医師・看護師および保育士による調査用紙配布を行い、郵送法で回収した。

調査用紙は無記名で自記式とした。背景と周囲の協力の程度、AD の子どもの状態・薬の使用・痒み・子育ての大変さについて回答

する用紙は独自に作成し、痒みと子育ての大変さは Visual Analog Scale (VAS) とした。加えて、幼児の母親の主観的疲労を測定するために、越河らが改定した蓄積的疲労徴候インデックス (CFSI) を用いた。

(2) アトピー性皮膚炎日記の開発

① 搔痒時の行動特徴の確定

患児が痒い時にとる行動に着目して 10 項目からなる独自の質問紙を作成し、承諾の得られた幼児の母親 4 名の協力によって、患部を搔く、寝つき、途中覚醒、発汗の 4 点が痒みの程度を判断する上で母親には重要度が高いという示唆を得た。

② 日記の作成と評価・修正

アトピー性皮膚炎日記(第 1 案)を作成し、協力への承諾が得られた 5 名の母親にインタビューを行い、改善点を明らかにした。

改善点について修正を行ったアトピー性皮膚炎日記(第 2 案)を承諾の得られた 5 名の母親に渡し、2 週間後に記入状況と問題点を明らかにした。同時に、2 看護大学の小児看護の専門家 2 名との検討から、第 2 案の問題点について明らかにし、修正を行うことでアトピー性皮膚炎日記(最終版)を作成した。

(3) AD 幼児の夜間睡眠時の痒みの状況と母親の対処 (※現在調査中)

A 病院小児科外来と B 小児科医院に受診した AD 幼児と母親で協力依頼を得られた場合に、夜間アクティグラフを装着してもらい、幼児の搔破行動の頻度と程度、および母親の動きを測定することとした。測定に使用するアクティグラフは、腕時計タイプを母親用、キルト地の布で独自で作成したカバーに入れて使用する子ども用の 2 種類を用いた。搔痒行動の分析は、専用の分析ソフトを使用した。搔痒行動の測定にあたっては、解析を容易にする目的で、先に作成したアトピー性皮膚炎日記を渡し、できる範囲内で記入してもらい、アクティグラフ回収時には日記をもとに半構成的インタビューを行い、母親の搔痒行動への気づきと対処、および効果の実感について聞き、質的に分析することとした。



4. 研究成果

(1) AD 幼児と母親の特徴

A病院小児科外来およびB小児科医院での配布は20部で、回収は8部であった(回収率40%)。C保育園での配布数は300部で、回収は160部であった(回収率53.3%)。有効回答数は、医療機関5、保育園159となった。

対象の背景を表1に示す。30代の母親は保育園120名(75.5%)、医療機関4名(80%)と非常に多くなっていた。また、保育園では専業主婦よりも仕事を持つ母親が多く、116人(73%)を占めていた。子どもの人数は医療機関では1人、保育園では2人が多くなっていた。子どもの年齢は、0歳から18歳までと非常に幅広く、今回の対象とした幼児期以外のきょうだいを育児している母親も存在した(図1)。保育園に子どもを通園させている母親で、周囲の協力が得られる母親は86.8%を占め、子どもの誰かにアトピー性皮膚炎があるのは47人(29.6%)であった。

表1 対象の背景

		保育園	医療機関
母親の年齢	20代前半	2	0
	20代後半	17	0
	30代前半	64	2
	30代後半	56	2
	40代	20	1
母親の仕事	フルタイム	34	0
	パート	68	2
	専業主婦	43	3
	自営業	11	0
	その他	3	0
子どもの人数	1人	23	3
	2人	92	2
	3人	35	0
	4人	8	0
	5人	1	0
周囲の協力	十分ある	63	2
	まあまあある	75	3
	あまりない	15	0
	ほとんどない	6	0
アレルギーの子ども	いる	94	5
	いない	65	0
アレルギーの子どもの中でアトピー性皮膚炎の子どもの人数	0人	47	0
	1人	34	5
	2人	11	0
	3人	1	0
アレルギーの子どもの中で食物アレルギーの子どもの人数	0人	75	3
	1人	18	2
	2人	1	0

表2 母親の仕事と子どもに接する時間の関係

	18時間以上	12~18時間	6~12時間	6時間以下
フルタイム	0	3	20	11
パート	0	15(1)	48(1)	7
自営業・その他	3	2	8	1
専業主婦	10(2)	20(1)	16	0

母親の仕事と1日の中で子どもに接する時間の関係を表2に示す。調整済み残差で明らかに多いものを青字、少ないものを赤字で示した。フルタイムとパートタイムの仕事で

持っている母親は、子どもと接する時間が1日12時間以下と自営業・その他と専業主婦に比較して有意に短くなっていた。調整済み残差で見ると、フルタイムの場合は6時間以下、パートタイムの場合は6~12時間が多くなる傾向であった。反対に、自営業・その他の母親は18時間以上が多く、専業主婦の母親は12~18時間と18時間以上が多くなっていた。

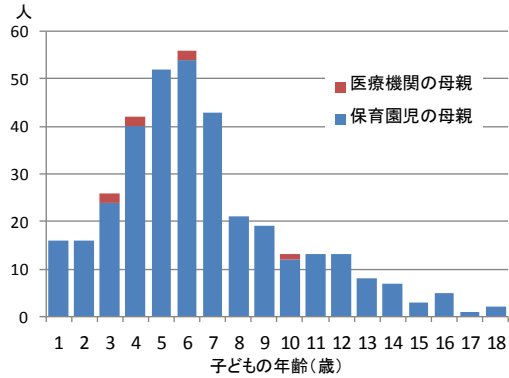


図1 母親が関わる子どもの年齢分布

VASで測定した「子育て(全般)の大変さ」は、アレルギーのない子どもの育児をする母親群(n=65)で52.3±22.8、AD以外のアレルギー性疾患の子どもの育児をする母親群(n=47)は51.8±21.0であった。それに対して、ADの子どもの育児をする母親群(n=51)の子育ての大変さは62.3±20.7であった(図2)。一元配置分散分析で有意な傾向の違いが認められ(表3)、下位検定でADの子どもの育児をする母親が有意に高くなっていた(図2)。

表3 子のアレルギーの有無による子育て全般の大変さ

	平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
グループ間	3704.351	2	1852.175	3.942	0.021
グループ内	75177.134	160	469.857		
合計	78881.485	162			

等分散性の検定 $W = 678$ $p = 509$

注: 箱ひげ図のAD群にある外れ値1件を除いて検定を行った

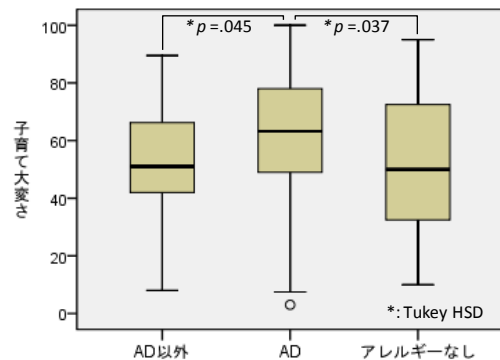


図2 子のアレルギーの有無による子育て大変さの分布

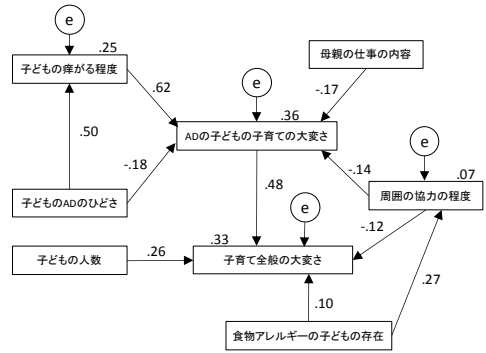


図3 ADの子どもの子育ての大変さに関する要因

ADの子どもの育児をする母親について、「ADの子どもの子育ての大変さ」と「子育て全般の大変さ」に影響を及ぼす要因についてパス図を作成し影響の強さをみた(図3)。「子どもの痒がる程度」から「ADの子どもの子育ての大変さ」へのパス係数は0.62であり、子どもの痒みが子育ての大変さに影響を及ぼしていた。

表4 質問項目ごとにみた訴え率

分類	項目	訴え数	訴え率	分類	項目	訴え数	訴え率
気力の減退	根気がつかない	34	21.3	不安感	心配ごとがある	88	55.0
	動くのがおっくうである	37	23.1		理由もなく不安になることがときどきある	37	23.1
	仕事に手にかかれない	1	0.6		ちかごろ、できもしないことを空想することが多い	12	7.5
	何ごともめんどくさい	30	18.8		なんとなく落着かない	18	11.3
	考えごとが面倒でいやになる	26	16.3		何かしようとする、いろんな事に頭が浮んでる	53	33.3
	すぐ気がなくなる	21	13.1		自分ほ他人より劣っていると思えて仕方がない	23	14.4
	自分の好きなことでもやる気がしない	12	7.5		気がちって困る	10	6.3
	頭がさえない	22	13.8		だれかに打ち明けたいなやみがある	25	15.6
	なんとなく気がない	29	18.1		ささいなことが気になる	36	22.5
	動作がぎこちなく、よく物を落したりする	13	8.1		夜、気がたつてねむれないことが多い	7	4.4
一般的な疲労感	全身の力がぬけたようになることがある	29	18.1	生きていてもおもしろくないと思ってしまう	9	5.6	
	しばしば目まいがする	22	13.8	一人きりでいたいと思うことがある	83	51.9	
	腰が痛い	87	41.9	自分がいやでしようがない	25	15.6	
	体のふしぶしが痛い	11	6.9	話をするのがわずらわしい	19	11.9	
	目がかすむことがある	31	19.4	すること自信がもてない	29	18.1	
	目が赤くなる	63	39.4	このころ、おっくうやめたいことがある	16	10.0	
	よく眠れる	102	63.8	何かでスバーツとうさばらしをしたい	82	51.3	
	寝りがよく夢をみる	43	26.9	何をやっても楽しめない	7	4.4	
	このころ足がだるい	30	18.8	ゆううつな気分がする	29	18.1	
	このころ食欲がない	3	1.9	このころ毎日眠くてしようがない	92	52.5	
身体不調	このころ頭が重い	28	17.5	朝起きた時でも疲れを感じる事が多い	71	44.4	
	このころ寝つきがわるい	18	11.3	このころ全身がだるい	41	25.6	
	胃、腸の調子がわるい	31	19.4	朝、起きた時、気分がすくれない	33	20.6	
	よけよけはきはきはする	6	3.8	くつろぎ時間が少ない	63	39.4	
	よく病を患える	16	10.0	仕事での疲れがとれない	49	30.6	
	自分の健康のことを心配だ	53	33.1	横になりたくないくらい仕事でにやぶる事が多い	21	13.1	
	ちよつとした事でもすぐおっくうだすことがある	111	69.4	毎日の仕事でたくさんにやぶる事が多い	39	24.4	
	気がたかぶっている	12	7.5	ものを捨てる、害いたりする気がなれない	28	17.5	
	すぐどなったり、言葉づかいがあらくなってしまふ	83	51.9	家族と一緒にいてもくつろげない	19	11.9	
	なんということなくイライラする	85	53.1	友人などのつきあいがおっくうである	37	23.1	
抑うつ感	おもいっきりケンカでもしてみたい	9	5.6	家族の世話で追いまわられている	56	35.0	
	むやみに腹がたつ	24	15.0	このころ、やせて来たようだ	11	6.9	
	物言や人の声がかたにさわる	17	10.6	すぐ風邪をひく	27	16.9	
	やっている仕事で集中する	12	7.5	ちかごろ元気がでない	14	8.8	
	いろいろな事が不満だ	35	21.9				
	働く意欲がない	8	5.0				
	仕事に興味がなくなった	6	3.8				
	将来に希望がもてない	16	10.0				
	生活にほろあいを感しない	18	11.3				
	下	25	15.6				
努力しても仕方ないと思う	10	6.3					

(2) AD 幼児の母親の蓄積的疲労度

8つの分類(気力の減退、一般的な疲労感、身体不調、イライラの状態、労働意欲の低下、不安感、抑うつ感、慢性疲労徴候)の中で、専業主婦には該当しないと考えられた「労働意欲の低下」の5項目と「不安感」の1項目の計6項目の質問を除いて統計処理を行った。

4割以上の母親が訴えていたのは、一般的な疲労感(2項目)、イライラの状態(3項目)、不安感(1項目)、抑うつ感(2項目)、慢性疲労徴候(1項目)であった。また、分類以外の項目で、「家族の世話で追いまわられて

いる」と感じている母親が35.0%みられた。

表5 子育ての大変さに関する質問項目

分類	質問項目	訴え	N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
気力の減退	動くのがおっくうである	有	37	64.26	17.71	3.12	158	.002
		無	123	51.59	22.73			
	何ごともめんどくさい	有	30	62.97	19.79	2.34	158	.021
		無	130	52.57	22.43			
	考えごとが面倒でいやになる	有	26	62.83	20.85	2.10	158	.037
		無	134	52.90	22.25			
	すぐ気がなくなる	有	21	69.88	15.12	3.51	158	.001
		無	139	52.19	22.30			
	自分の好きなことでもやる気がしない	有	12	64.96	14.30	2.49	15.86	.024
		無	148	53.67	22.62			
頭がさえない	有	22	63.55	17.00	2.07	158	.040	
	無	138	53.08	22.72				
なんとなく気がない	有	29	66.69	18.23	3.36	158	.001	
	無	131	51.82	22.25				
全身の力がぬけたようになることがある	有	29	64.31	17.97	2.67	158	.008	
	無	131	52.35	22.61				
疲一般的眠りが深く、よく夢をみる	有	43	63.58	19.22	3.21	158	.002	
	無	117	51.18	22.46				
不身体	このころ頭が重い	有	28	62.64	23.36	2.15	158	.033
		無	132	52.79	21.74			
イライラの状態	ちよつとした事でもすぐおっくうだすことがある	有	111	57.78	21.02	2.86	158	.005
		無	49	47.11	23.46			
イライラの状態	気がたかぶっている	有	12	69.04	23.23	2.38	158	.018
		無	148	53.34	21.85			
イライラの状態	すぐどなったり、言葉づかいがあらくなってしまふ	有	83	59.53	20.23	3.03	158	.003
		無	77	49.11	23.23			
イライラの状態	なんということなくイライラする	有	85	58.72	20.98	2.59	158	.011
		無	75	49.75	22.87			
イライラの状態	むやみに腹がたつ	有	24	68.75	15.55	3.51	158	.001
		無	136	52.00	22.38			
労働意欲の低下	いろいろな事が不満だ	有	35	62.74	21.31	2.51	158	.013
		無	125	52.21	22.07			
労働意欲の低下	努力しても仕方ないと思う	有	10	74.60	16.54	3.02	158	.003
		無	150	53.18	22.00			
労働意欲の低下	心配ごとがある	有	88	60.84	20.47	4.17	158	.000
		無	72	46.78	22.08			
労働意欲の低下	理由もなく不安になることがときどきある	有	37	65.96	20.96	3.70	158	.000
		無	123	51.07	21.57			
労働意欲の低下	ちかごろ、できもしないことを空想することが多い	有	12	71.00	17.16	2.72	158	.007
		無	148	53.18	22.15			
労働意欲の低下	なんとなく落着かない	有	18	70.33	16.93	3.30	158	.001
		無	142	52.51	22.11			
労働意欲の低下	何かしようとする、いろんな事に頭が浮んでくる	有	53	61.79	21.74	2.98	158	.003
		無	107	50.91	21.74			
労働意欲の低下	気がちって困る	有	10	73.20	10.65	5.20	14.95	.000
		無	150	53.27	22.31			
労働意欲の低下	だれかに打ち明けたいなやみがある	有	25	63.50	20.62	2.22	158	.028
		無	135	52.85	22.24			
労働意欲の低下	ささいなことが気になる	有	36	64.83	20.04	3.25	158	.001
		無	124	51.52	22.07			
労働意欲の低下	一人きりでいたいと思うことがある	有	83	59.84	21.66	3.23	158	.001
		無	77	48.77	21.62			
抑うつ感	自分がいやでしようがない	有	25	63.26	21.22	2.16	158	.032
		無	135	52.90	22.16			
抑うつ感	話をするのがわずらわしい	有	19	66.47	14.36	2.53	158	.012
		無	141	52.90	22.69			
抑うつ感	することに自信がもてない	有	29	66.33	15.34	4.15	58.95	.000
		無	131	51.90	22.76			
抑うつ感	何かでスバーツとうさばらしをしたい	有	82	62.13	21.06	4.72	158	.000
		無	78	46.51	20.77			
抑うつ感	何をやっても楽しめない	有	7	72.86	15.42	2.26	158	.025
		無	153	53.68	22.21			
抑うつ感	ゆううつな気分がする	有	29	64.09	24.31	2.60	158	.010
		無	131	52.40	21.32			
慢性疲労徴候	朝起きた時でも疲れを感じる事が多い	有	71	62.16	19.82	4.06	158	.000
		無	89	48.42	22.34			
慢性疲労徴候	朝、起きた時、気分がすくれない	有	33	66.38	21.50	3.56	158	.000
		無	127	51.43	21.50			
慢性疲労徴候	くつろぎ時間が少ない	有	63	62.00	21.75	3.55	158	.001
		無	97	49.65	21.35			
慢性疲労徴候	仕事での疲れがとれない	有	49	61.96	22.36	2.87	158	.005
		無	111	51.23	21.53			
慢性疲労徴候	横になりたくないくらい仕事でにやぶる事が多い	有	21	67.00	20.95	2.82	158	.005
		無	139	52.63	21.93			
慢性疲労徴候	毎日の仕事でたくさんにやぶる	有	39	62.73	23.85	2.70	158	.008
		無	121	51.87	21.17			
分類なし	友人などのつきあいがおっくうである	有	37	65.64	18.43	3.59	158	.000
		無	123	51.17	22.31			
分類なし	家族の世話で追いまわられている	有	56	64.88	19.29	4.58	158	.000
		無	104	48.94	21.85			
分類なし	働く意欲がない	有	8	74.38	13.93	2.64	158	.009
		無	152	53.47	22.17			
分類なし	ちかごろ元気がでない	有	14	76.86	13.63	4.12	158	.000
		無	146	52.37	21.78			

t 検定を行った結果、訴えの有無と子育ての大変さに有意な関係性がみられた質問は表5のようであった。「気力の減退」は9項目中7項目、「イライラの状態」は7項目中5項目、「不安感」は10項目中8項目、「抑うつ感」は9項目中7項目、「慢性疲労徴候」は8項目中6項目、また分類されていない7項目中の4項目が該当していた。「イライラの状態」に分類される「ちょっとした事でもすぐおこりだすことがある」と「すぐどなったり、言葉づかいがあらくなってしまふ」および「なんということなくイライラする」は、半数以上の母親が訴えていた。また、「不安感」に分類される「心配ごとがある」の1項目、および「抑うつ感」に分類される「一人きりでいたいと思うことがある」と「何かでスパッとうさばらしをしたい」の2項目も半数以上の母親が訴えていた。

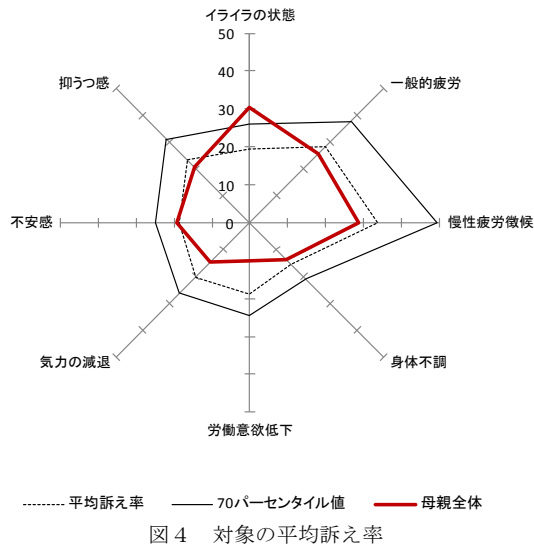


図4 対象の平均訴え率

分類ごとに平均訴え率をみた結果、「イライラの状態」が評価基準となる70パーセンタイル値より高い特徴がみられた(図4)。

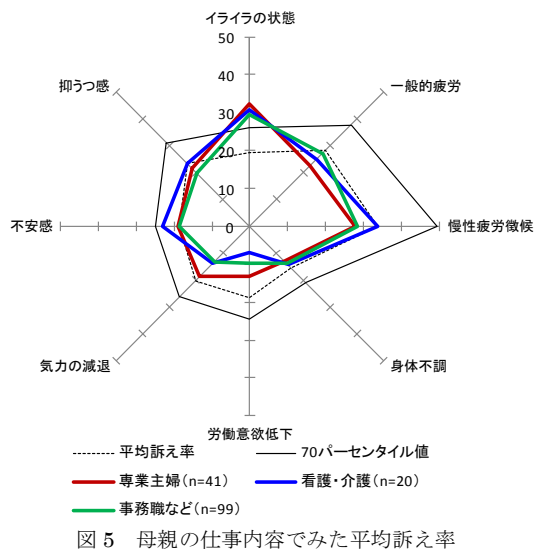


図5 母親の仕事内容でみた平均訴え率

母親の仕事内容を、専業主婦、看護・介護職、事務職等の3種類に分類して、それぞれの平均訴え率の特徴をみたが図4の全体の傾向と大きく異なっていない(図5)。

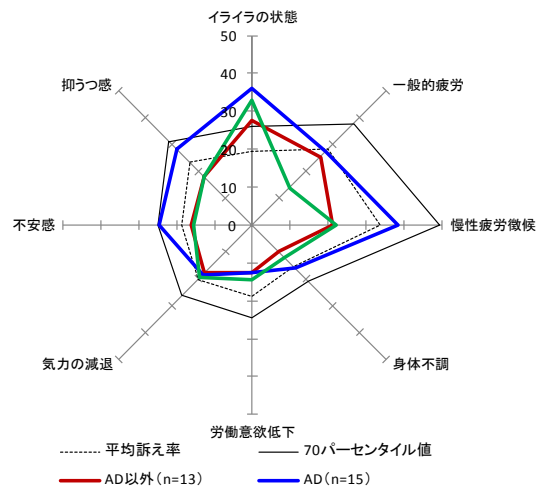


図6 アレルギーの有無による専業主婦の訴え率

次に、専業主婦と看護・介護職、事務職等のそれぞれの母親を、子どもにアレルギーがない群と、子どもがADの群、子どもにAD以外のアレルギー疾患がある群、の3つで平均訴え率の特徴をみた(図6~8)。

専業主婦ではアレルギーの有無に関係なく「イライラの状態」が70パーセンタイル値を超えていた。子どもにAD以外のアレルギー疾患がある群は、一般的疲労が高くなる傾向があったが、他はアレルギーがない群と同じ傾向であった。しかし、子どもがADの群の母親は、「抑うつ感」、「不安感」、「慢性疲労徴候」で他の群の母親よりも訴え率が高くなっていた(図6)。

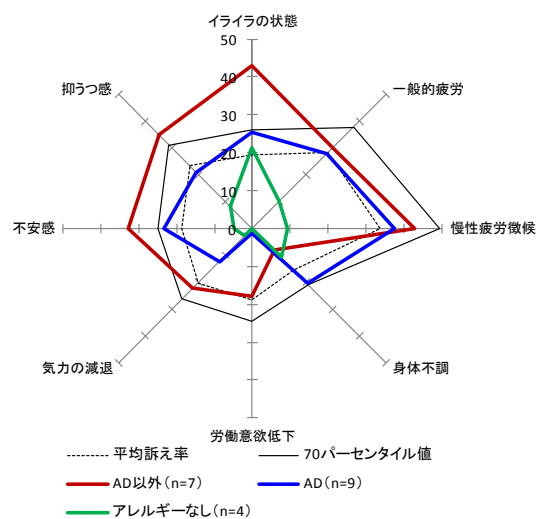
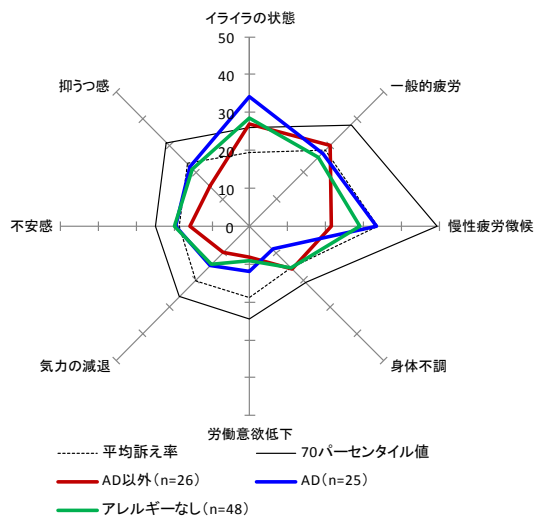


図7 アレルギーの有無による看護・介護に従事する母親の訴え率

看護・介護職の母親は、子どものアレルギーの特徴で大きく訴え率の傾向が異なっていた。子どもにアレルギーのない群では全ての分類で他の群よりも訴え率が低くなっていた。子どもがADの群では、「イライラの状態」と「不安感」、「身体不調」、「慢性疲労徴候」、「一般的疲労感」で基準となる平均訴え率と同じか上回っていた。しかし、子どもにAD以外のアレルギー疾患がある群は他の群と大きく異なった傾向がみられ、「イライラの状態」、「抑うつ感」、「不安感」が70パーセンタイル値を上回っており、「慢性疲労徴候」も他群よりも高いことから、母親の蓄積的疲労は大きいことが言えた。理由として、食物アレルギーの存在が考えられたが、看護・介護職の母親の人数が少ないことから、今回の調査だけの特徴である可能性もある。



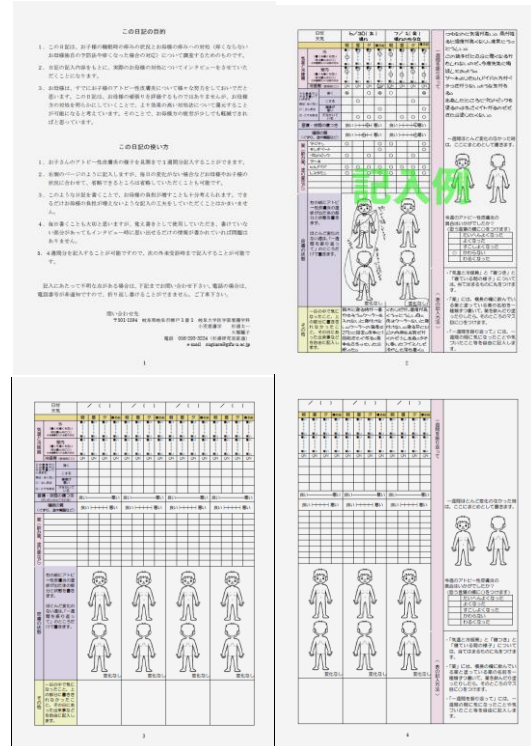
事務職等に就く母親は、子どものアレルギー疾患の特徴によって訴えの傾向が大きく異なることはなかった(図8)。

(3) アトピー性皮膚炎日記の開発

研究の方法に沿って作成を試み、右に示すアトピー性皮膚炎日記(一部)を完成させた日記は、1冊で4週間分の記入が可能とした。この日記は、(4)の研究で使用する予定であったが、現在までに親からの同意が得られず、今後の研究課題となっている。

(4) アトピー性皮膚炎幼児の夜間睡眠時の痒みの状況と母親の対処

実際の研究においては、この研究への協力者が得られず、現在も研究を進めている。



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉浦 太一 (SUGIURA TAICHI)

岐阜大学・医学部・教授

研究者番号: 20273203

(2) 研究分担者

大橋 麗子 (HASHI REIKO)

岐阜大学・医学部・助教

研究者番号: 90 612614

(3) 連携研究者

なし ()